松前町の発展をともに目指して 東急不動産株式会社と協定を締結

12月19日、役場で松前町と**東急不動産株式会社**（東京）の協定締結調印式が行われました。

同社は、町内に大型風力発電風車12基と蓄電施設を保有する「リエネ松前風力発電所」を建設し、平成31年4月から運転を開始しています。

このたび同社から、今後も風況に優れた松前町で陸上および洋上風力発電の事業展開も踏まえ、現在稼働中の発電所を活かし、防災基盤の整備や地域活性化などで松前町の発展に協力したいとの提案を受け、町としても産業振興や地域振興が期待できることから協定を締結することとなりました。

協定の主な内容は、風力発電の円滑な推進と松前町総合計画の実現に向けた協力を軸に、災害に強いまちづくりの推進、地域貢献や地方再生および活性化に資する取り組みを誠意をもって進めることとしています。

また、5月30日に行われた「リエネ松前風力発電所竣工式」の際に、同社からは移動式舞台（540万円相当）の目録をいただき、9月26日に町民総合センターへ納品されたことにより、町長から感謝状が贈呈されました。

新たな年を 手作りのしめ飾りで迎える

12月8日、交流の里づくり館で「しめ飾り作り体験」が行われました。

しめ飾りは、スーパーなどで手軽に購入できるお正月飾りですが、昔は各家庭でしめ飾り作りが盛んに行われていました。

今回は16人が参加し、うまく作れない人は前回も参加した人から手ほどきをうけながら、参加者それぞれのしめ飾りを作り、新年を迎える準備をしました。

貴重な竹林を守る 孟宗竹の間引き作業

11月21日、**松前町高齢者事業団**（会長・依田栄治）の皆さんが孟宗竹林で孟宗竹の間引き作業を行いました。

これは、孟宗竹の保護・育成を目的に行われたもので、枯れた竹や育ちすぎた竹を伐採し、細かく裁断する作業を行いました。

裁断した竹は、有限会社ニシモク（代表取締役・西川敏郎）の協力で竹炭にされ、再利用されます。

大島小の子どもたちが杵振舞（きねふりまい）の先生に！

11月28日、小島小学校を会場に、大島小学校の3・4年生7人が、小島小学校の3年生以上の子どもたち17人に杵振舞を披露しました。

これは松前町の伝統的な芸能である、江良杵振舞を知ることで、郷土を愛する心を一層高めるために、江良八幡神社杵振舞保存会（会長・門脇静男）の協力を得て、ふるさと学習の一環として行われたものです。

はじめに、大島小の子どもたちが杵振舞を披露し、その後は、小島小の子どもたちも門脇さんと大島小の子どもたちから教わりながら、杵振舞を体験しました。

最後は全員で音楽に合わせて演舞を行いました。

杵振舞を体験した小島小の子どもたちは、「簡単そうにやっているのを見ていたから自分もできるかと思っていたけど、実際やってみるとむずかしかった」と話していました。

これは何につかうんだろう？昔の道具に興味津々！

12月16日、旧白神小学校で、大島小学校の3・4年生7人、小島小学校の3・4年生5人、松城小学校の3年生19人が、社会科見学の一環として、松前町で使われていた昔の道具を見学しました。

旧白神小学校には、昔使われていた漁具や農具、家庭で使われていた道具など約3千点が保管されています。

この日は、昭和初期に使われていた道具を中心に見学を行い、松前でニシンが獲れていたころに使われていた漁具や、馬に引かせて畑を耕す道具など、普段目にすることがないようなものもあれば、わらで編んだくつや炭で温めて使用するアイロンなど、現在とは違った素材で作られている道具などもあり、子どもたちは、当時のエピソードを交えた教育委員会の学芸員からの説明を興味津々な様子で聞いていました。

見学した児童は、「昔の道具はほとんどが木で作られていてすごい」と話していました。

姉妹都市福島県伊達市の1日も早い復旧を願って

このたびの台風19号の暴風雨で甚大な被害を受けた、姉妹都市の福島県伊達市に対し、10月31日に食料品などの支援物資を提供し、11月21日に、町長が松前町からの見舞金と町内各団体からの見舞金を届けました。

伊達市では、現在も復旧活動が続いており、被災前の状態まで復旧するには、1年ほどかかると予想されています。

1日も早く日常の生活に戻ることができるようお祈り申し上げます。

災害の恐ろしさを再認識 災害支援報告を聞く学習

12月12日と18日、大島小学校と松城小学校で役場職員による福島県伊達市の災害支援報告が行われました。

これは、今回の台風19号で大きな被害を受けた姉妹都市の福島県伊達市へ災害支援で派遣された役場の職員から、実際に被災状況や、災害支援の話を聞くことで役場の政治的な働きを理解することを目的に行われ、大島小学校では3年生から6年生の14人と町民約20人、松城小学校では、6年生21人と町民約10人が役場職員の話に耳を傾けました。

職員からは、被災地の写真を交えながら、実際に行った災害支援の内容や体験が報告され、児童や町民の皆さんは、真剣な表情で話に聞き入り、現地の状況に心を痛めていました。

話を聞いた児童は、「災害の怖さを改めて知ることができたので、話を聞けてよかった」と話していました。

松城小学校

大島小学校

飛び散る汗に観客も興奮 松前でプロレス

12月7日、町民体育館で道南リングが主催する「松前町チャリティープロレス」が開催され、町民約140人が来場しました。

当日は8人のプロレスラー達が熱戦を繰り広げ、会場からは大きな声援が送られました。

また、試合のほかにチビッ子プロレスも行われ、来場した子どもたちは、レスラーと一緒にプロレスを楽しんでいました。

今回のイベントは入場無料で開催され、会場では、レスラー達が社会福祉協議会に寄附する募金を呼びかけました。

納税活動の功績が認められました

納税貯蓄組合長として、永年にわたり、組合員の加入促進や納税活動に尽力された**齊藤豊**さん（福山）が、その功績を認められ、渡島総合振興局長表彰（納税功労者）を受賞されました。

齊藤さんは平成10年から21年間、納税貯蓄組合長として勤められ、平成13年からは、松前町納税貯蓄組合連合会の理事を勤めていただくなど、納税思想の啓蒙や組合員の育成指導に取り組むなどの功績が認められました。

松前町で新しい取り組みを 肉牛改良センターお披露目

12月16日、肉牛改良センター（札前）の見学会が行われ、関係者や町民など、約100人が施設を見学しました。

肉牛改良センターは、畜産農家への子牛の供給や研修生の受け入れ、新規就農者の確保などを目的に建設された施設です。

建設された牛舎や牧草の保管庫、管理棟を見学された方は、「素晴らしい施設なので、事業が軌道に乗るといいですね」と期待を込めて話していました。

軽トラック1台を 寄贈していただきました

軽トラック1台（約150万円相当）を寄贈していただいた**コスモエコパワー株式会社**（東京）に町長から感謝状が贈られました。

風力発電事業大手の同社は、町内で営む事業が20年の節目を迎えたことなどから、地域貢献活動の一環として、12月オープンした肉牛改良センターで使用するための軽トラックを寄贈してくださいました。

同社は、平成11年から、札前地区で2基の風力発電施設を稼働させています。

江良漁港内の清掃を してしていただきました

江良漁港内を清掃していただいた**株式会社菅原組**（代表取締役・菅原修）に町長から感謝状が贈られました。

同社は江良漁港の整備工事で多忙にも関わらず、江良漁港内の草刈りやごみ拾いなどを、地域貢献の一環として行ってくださいました。